

共同研究契約締結に関するご報告

2021年7月6日

スガノ農機は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構様(久間和生理事長)と共に、土壌が農業生産に及ぼす影響を定量的に評価し、全国の生産者様への的確な土壌管理指針のご提供を目指した共同研究に引き続き取り組みます。

有機物循環農法を提唱し、地力維持と向上に関わる農業機械の開発を続けるスガノ農機株式会社(本社:茨城県稲敷郡美浦村、代表取締役社長:渡邊信夫)は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)様(久間和生理事長)と共に、現場での土壌モニタリングの採取と、ドローンとAIを活用したほ場空間把握を通し、土壌と土壌から構成されるほ場が農業生産に及ぼす影響を定量的に評価し、全国の生産者様への的確な土壌管理指針のご提供を目指した共同研究について締結いたしました。

同テーマでの共同研究は、本年で2期目(3年1期の4年目)となります。引き続き、土づくりに対する科学的根拠を明確にし、生産者の方々に具体的な情報をご提供できる手法についての研究を続けて参ります。なお、これらの活動において採取された「土壌モニタリング」は農業環境インベントリー展示館(茨城県つくば市)と土の館(北海道上富良野市)への展示を予定しております。

農研機構様と共に、土づくりをより身近に感じて頂ける取組を積極的に行って参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

農研機構 農業環境研究部門 農業環境インベントリー展示館にて撮影



農研機構 農業環境研究部門 所長 岡田 邦彦氏(右)
スガノ農機株式会社 代表取締役社長 渡邊 信夫(左)

農研機構 農業環境研究部門 : <https://www.naro.go.jp/laboratory/niaes/>